

～三川合流部や狭窄部の特性に対応～

- 京都府域では、宇治川、木津川、桂川が1箇所で合流する三川合流点が存在。
- 三川合流点の上流では、合流点の高い水位によるバックウォーター現象から、各河川において、水位が高く洪水が流れにくい状態となるため、支川からの流入が困難となり、近年の出水でも浸水被害が発生している。
- このため、三川合流点への流量の低減や合流時間を分散させ、バックウォーター現象を抑制する対策が必要。

三川合流点の水位上昇の影響(実洪水)

平成25年洪水 三川合流点の水位が高く、内水被害が発生しやすい



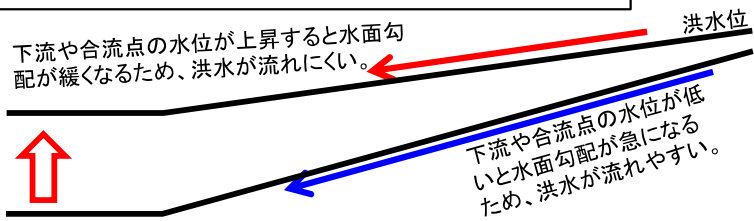
9月16日 10:00頃

平成29年洪水 三川合流点の水位が低く、3支川の洪水も流れやすい



10月23日 15:00頃

三川合流点の水位上昇の影響(イメージ)



- ・雨の降り方によっては、3河川が同時にピーク流量を迎える事もあり、その際には三川合流点の流れにくく、各支川の水位上昇を助長。
- ・特に、洪水流量が小さく、洪水時の水面勾配の緩やかな宇治川では、三川合流部からの背水による影響が大きく、戦後最大洪水の昭和28年洪水時には三川合流点からの背水により宇治川堤防が決壊。
- ・また、宇治川だけでなく、雨の降り方によっては桂川、木津川にも背水による影響が発生するため、淀川水系中流域においては、三川合流点に到達する流量を低減し、三川合流点の水位を低下させる流域対策が必要。さらに支川上流域において流出量を低減させる対策が必要。



八幡市の浸水被害(H25)

様々な対策で洪水を抑制(案)



八幡市
あさかぜ公園雨水地下貯留施設



宇治市公園地下貯留施設



京都府 いろは呑龍トンネル



設置事例 広報ステッカー 模式図
京都府内各市 マイクロ呑龍(雨水各戸貯留)

- 対策量 : 約24万m³
- 計画概要(全体延長 約9.0km)
- 北幹線(φ3.0~8.5m) : 約4.9km
- 南幹線(φ3.5m) : 約4.1km
- 呑龍ポンプ場、調整池